

TIC NEWS

vol. **114**
2015.1

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



第19回とやま国際草の根交流賞、平成26年度富山県知事表彰(国際交流部門)受賞者の皆様

(公財)とやま国際センター創立30周年

(公財)とやま国際センターは、富山県の民間レベルでの国際交流を推進するため昭和59年11月に設立され、去る平成26年11月29日(土)に創立30周年記念式典をタワー111、スカイホールにて開催しました。

このたびの30周年を契機として、今後とも富山県の国際交流、国際協力及び多文化共生の推進に全力を尽くしていきます。

TIC 国際交流人材バンク ロシア語通訳者セミナー

テーマ『実例で研究 -情報通訳論の基本-』

日時：平成26年9月20日(土)

場所：環日本海交流会館 大会議室

講師：外務省研修所ロシア語講師、朝日新聞客員 徳永 晴美氏



とやま国際センターでは、国際交流人材バンクの通訳登録者を対象に毎年通訳者セミナーを開催しています。今年度はロシア語通訳者セミナーを開催しました。

参加者は、県内で活動している通訳者・翻訳者、ロシア語講座受講生、ロシア語や文化に興味がある方など30名ほどが受講しました。

今回の講師には、ロシア語通訳の第一人者、徳永晴美氏をお招きし、講義していただきました。

通訳では情報を瞬時に正確に伝えることが求められるため、視覚的にも見やすいように、情報を記号化してメモを取る方法や、日本人が苦手とするロシア語の発音の方法などを、わかりやすく実例を交えながら講義していただきました。

講師の徳永先生は、「通訳者は物事を全部を知っているとは限らない。また、同時通訳の場合に全てを訳すことは不可能である。そのためメモを効果的に取り、重要度の高い情報を即座に通訳することが大切。また、ラジオや本、DVDなど興味を持てるもので常に勉強を続けること、自分を信じてやりとげること。」と、通訳のポイントを楽しくわかりやすく教えていただきました。また、徳永先生が実際に4人の会話を同時通訳している映像を見ながらの講義では、プロの通訳技術を見ることができ、参加者からは「大変勉強になり刺激を受けた」といった声が聞かれました。

国際交流フェスティバル2014

日時：平成26年11月9日(日) 10:30~17:00

場所：富山駅前CiCビル内(1、3、5F)

毎年「異文化理解と交流」を深めることを目的に開催されて、今年で18回目になります。イベントステージでは外国人カラオケ大会や各国の演奏や舞踊が繰り広げられ、留学生らが自国を紹介するブース、世界の民族衣装の試着体験やロシア語スピーチコンテストなど様々な催しが実施され、多くの来場者で賑わいました。外国人カラオケ大会では中国出身の呉雨さんが森山直太郎の「さくら」を歌い、優勝しました。



外国人住民と日本語ボランティアのための防災学習

ー災害対応カードゲーム「クロスロード」を使ったワークショップー

日時：平成26年12月7日(日) 10:30~12:30
場所：環日本海交流会館 大会議室
講師：仙台防災学習研究所 所長 古橋 信彦氏

「もし災害にあったら…その時どうする？どうすればいい？」災害の時に適切な判断をすることはとても難しいです。「クロスロード」とは十字路、分かれ道、岐路などを意味し、災害対応はジレンマを伴う重大な

決断の連続です。そのクロスロードゲームを通して災害対応について考え、知識を深める防災ワークショップを実施しました。参加者は16名で、うち外国人住民5名の参加がありました。

自身も教員をされていた講師の古橋先生は、日本の学校で行われている災害教育を外国人参加者に紹介されました。外国人参加者からは「地震のとき机の下に潜るように子供が教育されていることは初めて知った」などの声があがりました。また震災時の倒壊した建物等からの人命救出は消防隊等の公的機関よりも近所の人に救出される人が約3倍も多いという事実の裏には「地震後は近所の人に声をかけをする」という学校の災害教育があることも紹介されました。

外国人参加者からは「地震が起きたら避難所へ」ではなく、地震の被害で家に住めなくなった人は避難所へ行くのだといったことも改めて知った、「支援されるだけでなく、支援する側にまわることも重要」といった声が聞かれました。

日本人参加者からも、「避難所に行かなくていいようにするための家の災害対策、一週間分程度の食べ物の備蓄の必要性など、防災知識について知っているつもりでも十分ではなかった」、「日本語教室の活動に防災を取り入れたい」等といった感想が聞かれ、大変有意義なワークショップになりました。



富山県大連事務所開設10周年

富山県と中国遼寧省が友好提携30周年を迎えた昨年、2002年4月に開設した富山県大連事務所もちょうど10周年を迎えました。



10月22日には石井知事が団長とする県友好代表団、日中友好県議員連盟訪中団、県文化訪問団、遼寧省、大連市各政府、中国進出企業関係者など164人が出席し、大連シャングリラホテルにおいて富山県大連事務所開設10周年記念レセプションが開かれました。

石井知事からは「大連事務所は、富山県と遼寧省、大連市のために大事な拠点であり、一層活動を充実していきたい」との言葉がありました。

(公財)とやま国際センター30周年の歩み

昭和59年11月24日	昭和59年11月27日	昭和60年6月1日	昭和62年9月12日	平成2年1月23日	平成6年4月1日	平成7年3月30日	平成8年2月26日	平成13年11月2日	平成15年2月10日	平成16年4月1日	平成17年3月10日	平成23年4月1日
(財)とやま国際センター設立 (理事長 原谷 敬吾)	県森林水産会館2階で事務所開き	事務所を富山県民会館4階に移転	事務所をマリエとやま6階に移転	地域国際化協会として自治大臣認定	富山県海外協会を統合し、旅券事業部門 新理事長に中沖富山県知事就任	特定公益増進法人として富山県知事認定 を設置	事務所をタワー111ビル4階に移転	100年記念表彰 文部科学大臣より、留学生受入れ制度	日本海学推進機構 設立	富山県大連事務所 開設	新理事長に石井富山県知事就任	公益財団法人とやま国際センターへ移行

(公財)とやま国際センターは昭和59年の設立以来、県民の皆様が開かれた国際交流機関として着実に発展し、この度30周年の節目を迎えました。

平成26年には立山黒部アルペンルートを訪れた外国人観光客が初めて16万人を超えたほか、県内で暮らす外国人住民も増加し、富山県の国際化も着実に進展しています。

平成26年11月18日には富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が実現し、また平成27年3月14日の北陸新幹線の開業控え、今後さらに多くの外国人観光客の来県が見込まれ、外国人と県民の皆さんが互いに文化の違いを理解しながら、ともに安心して暮らせる多文化共生社会の実現に向け、当センターの担う役割はますます重要になるものと考えています。

この30周年を機に、今後とも地域や時代のニーズに対応した国際交流や国際協力、多文化共生事業に全力で取り組んで参りますので、皆様がたの一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

創立30周年記念講演会

“動乱の東アジア情勢と日本の針路”

日時：平成26年11月29日(土)

場所：タワー111ビル スカイホール

講師：手嶋 龍一 氏

(外交ジャーナリスト、作家、慶応義塾大学大学院教授)



元NHKワシントン支局長として著名な手嶋龍一氏をお招きし、創立30周年記念講演会を開催しました。

手嶋氏は、今世界で、経済的にも安全保障面でも最も注目されている地域である「アジア半球」の重要性、地球温暖化によって出現した北極海航路のもつ経済的メリット等について話されました。その地域のまさに中心に存在し、伏木富山港などを抱える富山県に住む私たちは、いかに自分が戦略的に重要な地域にいるかを、まずは自分達自らが認識してほしいという手嶋氏からの熱いメッセージに、会場に集まった約300人の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

第19回とやま国際草の根交流賞受賞者

国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”。今回は(公財)とやま国際センター創立30周年記念式典において、平成26年度富山県知事表彰(国際交流部門)もあわせて11月29日に行われました。受賞者は以下の皆さまです。

—とやま国際草の根交流賞—

【個人】

市森 武さん

富山県南米協会常任理事等として富山県と南米との友好交流に尽力。特にアルゼンチンとはタンゴの紹介等を通じて交流に貢献。また、富山県ホッケー協会副会長として、ホッケーを通じた韓国とのスポーツ交流にも積極的に取り組む。

梶 義己さん

高岡市国際交流協会の理事・企画運営部長等として国際交流事業の企画立案や運営に尽力。当協会主催の「たかおか国際交流フェスタ」などを企画運営するとともに、国際理解を深める活動に積極的に取り組み、市民レベルの国際交流の活性化と国際親善の発展に貢献。

神保 正さん

富山市民国際交流協会の理事・国際教養委員会委員長等として語学講座などを通じた国際理解を深める活動の充実に努める。語学講座では、楽しみながら上達できる教材の準備・運営に貢献するとともに、英語通訳や外国語ボランティアの養成に尽力。

宋 勇さん

富山県日韓親善協会の副会長等として日韓の経済、文化、スポーツ、青少年などの交流の促進に努めるとともに、協会創立35周年事業では、韓国の高校生を招いての伝統芸能公演や、「韓国食文化の夕べ」の開催に尽力するなど、日韓両国民の相互理解と友好親善に貢献。

永原 碩子さん

高岡鳩の会の事務局長として中国錦州市への訪問団派遣や高岡への招待者の受入れなど国際交流に貢献。当会主催の日本対中国歌合戦や、中国錦州市で開催する日本語弁論大会の運営に尽力するとともに、この大会の優秀者を自宅でホームステイさせるなど友好交流に努める。

【団体】

アレッセ高岡

(高岡外国人の子どものことばと学力を考える会)

ブラジルなどの外国人中学生を対象に、高校進学のための学習支援を行う。元教員などのボランティアによる学習指導によって、外国人中学生の就学脱落を防ぐとともに、高校進学など自己実現につなげるうえで大きな成果をあげる。

高岡市卓球協会

中国との卓球の交流試合に取り組み、中国錦州市へ定期的に卓球親善訪問団を派遣し、小中学生、一般市民と交流試合を行うなど、友好交流を深める。また、錦州市での歓迎交流会では富山県の民謡等の日本文化を紹介する等、文化面での交流親善にも努める。

高岡市日中友好協会

高岡市と中国錦州市との民間交流に努め、友好提携20周年、25周年の記念訪問団では、芸術・文化、スポーツ等多面にわたる交流事業を行い親善の中心的な役割を果たす。また、市内在住の中国人との交流会や中国文化を学ぶ会を定期的で開催するなど、友好交流に貢献。

富山市立富山外国語専門学校

語学を活かした学外でのボランティア活動を行い、県内で開催される国際的な演劇祭、舞台芸術祭等において、先生、生徒及び卒業生が海外から参加することもたちの通訳ボランティアを務めるなど、国際文化交流に大きく貢献。

南砺市福紹会

旧福光町と中国紹興市との友好交流を引き継ぎ、友好訪問団の派遣、紹興市からの多方面にわたる訪問団の受入など、友好交流の発展に努めている。また、一般市民を対象にした中国関係講座の開設など、南砺市における国際理解の進展に貢献。

日本語教室 in 黒部

受講生と指導ボランティアが相互に知識や情報を教えあう日本語教室を開催。多様な言語の外国人が参加し、日本語を学ぶだけでなくお互いの生活習慣や文化を伝え合い、異文化理解にもつなげるなど、多文化共生の推進に大きな役割を果たす。

—富山県知事表彰(国際交流部門)—

稲垣 俊吉さん

富山ウラジオストク会の要職にあって、ウラジオストクを中心とするロシア連邦沿海地方との友好親善事業(訪問団派遣、極東連邦大学での桜の植樹等)を多数開催し、富山県とロシア沿海地方との相互理解と友好交流の推進に積極的に貢献。

林 和夫さん

富山日豪ニューージーランド協会の要職にあって、オーストラリア連邦及びニューージーランドとの友好親善事業(留学生やALTとの各種交流、バスハイク等)を多数開催し、相互理解と友好交流の推進に積極的に貢献。

ODAを活用した中小企業海外展開支援事業

経済発展の進む開発途上国でODA（政府開発援助）と民間投資の連携による多様な課題への開発ニーズが増している中、JICAでは、日本の企業が持つ優れた製品・技術を途上国の課題解決に活用し、企業の海外展開に向けた活動を支援する事業を行っています。企業の海外展開への取組みを通じ、国内経済活性化へも貢献することが期待されています。富山の企業2社の取組みを取り上げます。

▶株式会社タイワ精機（富山市）

コイン精米機で国内シェアを誇るタイワ精機は、カンボジアでの事業展開を進めています。昨年現地製造工場を竣工し、精米機を生産する一方、JICAの「普及・実証事業」を活用し、カンボジア国産米の品質向上と農協の組織強化のため、現地2カ所の農協に精米プラントを導入し、精米事業の実証活動を行っています。

カンボジア政府は精米輸出による外貨獲得を目標に掲げていますが、国内生産量の約半分の余剰物が精米されずに近隣国へ安価で流出しているのが現状です。

「精米プラント全体の工程において現地でワンストップサービス可能な会社になること」を目指す同社の取組みにより、カンボジアで国内加工およびコメの高付加価値化が進むことが期待されます。



現地農協に導入した精米プラント

▶株式会社アース・コーポレーション（富山市）

有機性汚泥処理・バイオマス燃料製造の技術を持つアース・コーポレーションは、JICAの受託により、ペルーでの事業展開の可能性について調査を開始しました。同社は、有機性汚泥を乾燥処理し堆肥原料やボイラー燃料として販売することで、汚泥の有効利用に貢献しています。

ペルーの首都リマ市では、人口増加により排水や廃棄物等の環境問題が悪化。政府は排水処理率向上に取り組んでいますが、排水に含まれる汚泥の埋め立て処理が追いつかず、発生汚泥量の4割弱しか適性処理されていません。

この課題に対し、同社の技術を活用した有機性汚泥のバイオマス燃料化により、汚泥処理および汚泥廃棄物の軽減に寄与することが期待されます。
(問い合わせ：JICA北陸 松柴 076-233-5931)



JICAボランティアからの現地レポート

今回はエジプトから届いた青年海外協力隊員 宮越 麻衣子 さんからのお便りをご紹介します。

エジプト紅海県の海沿いにある町、ハルガダ。そこが私の活動任地です。配属先である社会連帯省ファミリープロダクト部管轄下の職業訓練所を巡回し、そこで作られる手工芸品の販売面を支援しています。この町はヨーロッパから休暇でやってくる人々が非常に多く、国内情勢の影響で観光客が激減してしまっていた時期もありましたが、今は状況も安定し町全体が活気づいているようです。

活動においては、職業訓練所に来る女性達の何かを学びたい、仕事をしたい、という思いをいかに守り、今後につながるよう工夫すべきであるのか。また、外国人の旅行者や居住者が多いというハルガダの特性を活かした商品販売に、どうしたら任地の人々に当事者意識をもって一緒に取り組んでもらえるのか。それらの点にいつも注意を払って活動させて頂いています。自分のペースで焦って物事を進めようとするあまり、周りを巻き込む事が出来ないまま、自分の力に限界を感じて苦しむ時期もありましたが、もがき苦しむ中で、様々な人と意見を交換し合い、任地の人々の直面している問題の解決の糸口がほんの少しずつ見えてきたように思います。

2011年に起こった革命からもうすぐ4年が経とうとしています。国民達は新しい大統領に大きな期待を寄せる一方で、自分達の生活の中で実感できる変化を切実に求め続けています。しかしそのような変化を求める流れの中でも、これまで受け継がれてきた教え、伝統、家族間の結びつきなどは、これから先もずっと守り続けられていくであろうことは、必ずしも良い面だけとは言えませんが、この国の強さなのだろうと思います。

エジプトという国に派遣され、この国の持つ美しさに触れ、この国の人々の味わいのある人柄に癒され、残る任期もあと僅かとなりました。これまで以上に、任地の人々と笑い合い、怒り合い、そして励まし合いながら、感謝の思いを持って活動に取り組んで行きます。



宮越 麻衣子さん

派遣国：エジプト・アラブ共和国
職種：村落開発普及員(現コミュニティ開発)
派遣期間：平成25年3月～平成27年3月
配属先：連帯・社会公正省ハルガダ支局
ファミリープロダクト部

アリス・ウー さん

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. 医療機器メーカーで働いています。ミネソタ州ミネアポリスに本社があり、心臓ペースメーカー製造において世界最大のシェアを持つメーカーです。私はここで働くかわら、5年前から日本語の勉強を始め、会社には今まで二回、長期の夏休みをもらい日本で日本語の勉強をしました。仕事で日本語を使うこともあります。私の台湾の両親は日本語が堪能でしたが、私は台湾にいるときは全く日本語に興味がなく、50歳を過ぎて初めて日本語の美しさ、日本文化の魅力に気づきました。

Q. 近況について教えてください。

A. 私はアメリカ最北の地ミネソタ州に住んでいますが、今は寒い冬の真っただ中です。ミネソタ州はアメリカの冷蔵庫と呼ばれるほど寒い所で、私の裏庭からもオーロラが見えます。雪のシーズンは無事に会社に行って帰ってこられるか不安な日もあります。州内には約1万もの湖があってきれいな所です。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 2013年に山梨で日本語を勉強していたときに、旅行で金沢に足をのばしました。そのとき北陸が大好きになり、また戻ってこようと決心しました。私はその後インターネットで富山を見つけ、「山と海を見渡せる場所なんて天国に違いない」と思い、2014年の夏、富山にやってきました。富山では人生最高の時を過ごしました。日本語の勉強はもちろん、偉大なる立山に行ったこと、素晴らしい和食、便利な富山市の無料レンタサイクル等々。上高地行きのバスチケットを買うのを手伝ってくれた女性は長いバス旅に車酔いしないようにと、飴玉までそっと手渡してくれました。このように富山の人々が私を至る所で心地よくさせてくれたので、いかに自分の日本語が出来ないかということも忘れてしまうほどでした。



Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 皆さんの住んでいる街は本当に素晴らしいです。今度は夫と立山登山をしにまた戻ってきたいと思っています！

こんな“国際交流”やっています！

“日韓おりがみ交流会”

おりがみ“遊々”の会（魚津市）

～TICから助成した事業をご紹介します～

おりがみ“遊々”の会は、平成18年発足以来、魚津市を中心に新川地区一円で老人福祉施設、生涯学習講座、保育園・幼稚園等でおりがみを用いたボランティア活動を展開しています。

平成26年8月3日には、韓日折紙交流協会理事の崔 恩英（チェ ウンヨン）氏を迎え、「日韓おりがみ交流会」を開催しました。

独特の絵柄や肌触りをもつ韓国おりがみを用い、3種類のおりがみ制作を行いました。日本のおりがみとの違いを体験し、韓国文化を知る良い機会になりました。



韓国出身
金 珠熙 さん
お薦め料理!



떡볶이 トッポッキ

韓国では屋台等でも人気の庶民的な料理トッポッキ。トッポッキもちという棒状のトック(餅)を甘辛く味つけたものです。トッポッキもちはうるち米や小麦粉でできているので、煮込んでも型崩れしません。

～作り方～

1. フライパンにごま油をひき、すりおろしたニンニク、刻んだ野菜を加え、炒める。
2. コチュジャン、砂糖を加えて炒め、水を加える。
3. トッポッキもちをいれ、やわらかくなるまで煮詰める。



- * 野菜は玉ねぎなどを入れても美味しいです。
- * さつま揚げ、乾燥ラーメンを入れるのも韓国風です。
- * トッポッキもちが手に入らない場合は、トック(韓国の餅)、日本の切り餅などをいれても美味しいです。



～材料～ (2人分)

- トッポッキもち…………… 180g
- ネギ…………… 1本
- キャベツ…………… 1/4玉
- ごま油…………… 少々
- ニンニク…………… 少々
- コチュジャン…………… 少々
(または赤唐辛子粉)
- 砂糖…………… 少々
- 水…………… 2/3カップ

TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海シンポジウム

～つながる海、世界の海から日本海、そして富山湾～

2月14日(土) 13:30～16:40 北日本新聞ホール

基調講演

講師：総合地球環境学研究所

名誉教授 秋道 智彌 氏

パネルディスカッション

コーディネーター：秋道 智彌 氏

パネリスト：寺島 紘士 氏

(海洋政策研究財団常務取締役)

佐藤安紀子 氏

(ウーマンズ・フォーラム魚編集長)

稲村 修 氏 (魚津水族館館長)

JET世界まつり2015

2月8日(日) 12:00～16:00

富山県民共生センターサンフォルテ

テーマ “It's a Small World!”

ステージアトラクション、出身国紹介ブース、キッズコーナー、国際カフェ、異文化体験コーナー

環日本海交流会館 新着図書のご案内

～新しく図書が入りました!～

漢字たまご

漢字ビギナーズ 24の法則がわかる!

日本語能力試験 公式問題集

英語で日本紹介ハンドブック

バイリンガル漫画 DORAEMON

DVDトラッドジャパン 等



国際交流人材バンク

TICでは、様々な国際交流活動等に協力していただけの人材を募集し、紹介しています。「外国の方をホストファミリーとして受け入れたい」、「通訳をしてもらいたい」など…そんな方は国際交流人材バンクを活用してみてください。

利用や登録についての詳細はホームページをご確認ください。

<http://www.tic-toyama.or.jp/>

(公財)とやま国際センター賛助会員募集及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円

団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくご願ひ申し上げます。